

21年度の町の事業

歳入

問 経常収支比率が、当初予算の段階で84%であったものが決算時は86.9%になった理由は。

企画財政課長 税収の減と支出の一部事務組合負担金や委託料の増などによる。

問 町営住宅使用料の滞納繰越への対応は。

管財課長 毎月督促状の送付および訪問を行い、長期滞納者については、強制執行による退去をさせた。

経常収支比率…地方公共団体の財政構造の弾力性を判断する指標。地方税や普通交付税など経常的に収入される財源のうち、人件費や公債費など経常的に支出される経費に充当される割合。この比率が高いほど財政の硬直化が進んでいることを表す。一般に70～80%が適正水準とされている。都内の市町村平均は91.2%である。

まちづくり

問 狭山池水源整備工事について、どのような工事が行われたのか。

建設課長 狭山池上流にある都の井戸を譲り受け、老朽化したポンプなどを交換した。これは、狭山池および残堀川の水質浄化と、緊急時の水源としての整備である。

問 緑道の舗装については、どのような検討がなされたのか。

建設課長 南平緑地と下野緑地の舗装を行った。今後は、現地を調査し、精査して進めていきたい。



碎石舗装された緑道（下野緑地）

行政評価

問 行政評価事業はどのように行われたのか。

企画財政課長 町全体で161事業をリストアップしシートを記入。それに基づきヒアリングを行った。補助金の事業が削減できないか、委託料が減額できないかなど細かい視点に立って評価した。廃止となった事業例として、「瑞穂青少年小笠原探検隊」があるが、一定の成果が得られたことや多摩島しょ子ども体験塾市町村助成制度の廃止などが理由である。

環境対策

問 ごみ減量の成果は。

生活環境課長 全体で601トンの減量であった。

問 家庭ごみについては、減量のためにどのような施策を行ったのか。

生活環境課長 5地区に対して10回の説明会を行った。内容は、水分を切って、できるだけ軽くして出すことや、分別の仕方について、可燃と不燃、もしくは資源に分けられるものは資源に入れることなどを説明した。

議員が総点検

安全・安心

問 青色回転灯装備車による防犯パトロールの成果は。

地域振興課長 中高生の夏場の喫煙や花火に対する苦情・指摘が前年と比べ大幅に減少した。また、犯罪や放火を含めた火災などに対する抑止効果もあった。

問 消火栓の新設が行われた場所は。

地域振興課長 二本木に2基、石畑に3基、殿ヶ谷に1基、富士山栗原新田に2基を新設した。なお、撤去も3基行った。

産業

問 瑞穂ブランド特産品調査研究委託は、どのような調査研究を行ったのか。

産業振興課長 講師を招き、意見交換や講演を実施し、その中でいろいろな提言を受けた。また、地元の小麦粉を使い、瑞穂農芸高校に依頼して狭山茶入りパンの試作をした。



昨年の産業まつりで試食として配られた狭山茶入りパン

福祉と健康

問 障がい者・高齢者に対する住宅用火災警報器設置補助金に不用額が出ているが。

福祉課長・高齢者福祉課長 障がい者の方は203世帯、高齢者の方は、65歳以上、502世帯を想定し、周知徹底したが、実際には利用が少なかった。

問 次世代育成支援行動計画策定において、出された意見や後期の行動計画の特徴は。

福祉課長 22～26年度までの後期計画を策定。発達障害のあるこどもの顕在化、食育の推進についてなど、意見が交わされた。前期の行動計画の理念は踏襲し、達成状況を踏まえて、後期の目標事業量を設定した。

問 子宮がん検診の無料クーポン実施により受診率はどう変化したか。

保健課長 子宮がん検診は11.6%で1.4ポイント、乳がん検診は14.9%で5.9ポイントそれぞれ前年度より上昇した。

教育

問 特別支援教育スタッフは充足していたのか。また、問題点はなかったのか。

学校指導課長 学校からの申請に基づいて、12名の補助員を配置した。年度当初、打ち合わせの時間が取れないなどの問題点があったが、その時間も確保し担任としっかり打ち合わせをしたうえで、子供の指導に当たることができた。

問 国体施設整備土壌汚染調査委託の結果は。

社会教育課特命担当主幹 14区画を5カ所ずつ土壌分析したが、有害な物質は検出されなかった。

問 ビューパークの委託料全体で8,000万円が毎年計上されているが、見直しの協議はしたのか。

社会教育課長 競技場を年3回整備しているが、職員で整備が可能ということで、94万5,000円減額した。



ビューパーク競技場を整備する町職員